



高千穂の夜神楽始まる

夜を徹して33番

来年2月
まで各地区

国の重要無形民俗文
化財の高千穂の夜神楽
が16日に始まった。口
開けは2地区であり、
それぞれ33番を舞い、
五穀豊穣(ほうじょう)
などを祈念した。これ
から来年2月8日まで
町内16地区の公民館や
民家などを神楽宿とし
て行われる。

神楽シーズンの先頭
を飾ったのは、押方の
粉水崎集会所と岩戸の
下永の内公民館の2カ
所。地区にある氏神社
から神様を招き入れた
神楽宿で奉仕者ほ
しゃ、ほしゃどん)が夜
を徹して舞った。

下永の内公民館に
は、しめ縄や切り絵の
彫(え)り物などが張り
巡らされた神庭(こう
にわ)で、地元の奉仕者
が太鼓や笛の音に合わ
せて舞った。

公民館には地元のほか、
町内外から観光客
が次々と訪れた。公民
館外にはたき火がたか
れ、夜もふけて寒くな
る中、かつぼ酒の振る
舞いを受けながら談笑
したり、舞を見入って
いた。

高千穂町岩戸、下
永の内公民館で奉
納された夜神楽
(16日)